

ご挨拶 自由民主党顧問 塩川正十郎-1994.12.04

ご挨拶

ここ台南市で、第十一回「アジア・オープン・フォーラム」が開催されるにあたり、一言、ご挨拶を申し上げます。

日台間の架け橋として、「アジア・オープン・フォーラム」が開設されて、はや十一年の歳月が経ちました。その間、日台間の民間交流は年々その幅と厚みを増し、大きな成果を上げております。これも、本フォーラム日台双方の世話人皆様の、ご努力とご苦心の賜ものであり、改めて、深い敬意と謝意を表する次第であります。

本年九月、台中市を中心にして大きな地震の被害が起きました。亡くなられた方々に、深甚なる哀悼の意を表するものであります。わが国は、さきに阪神大地震の洗礼を受けておりますので、皆様方の悲しみと苦しみ、いっそう切実に伝わって参りました。日本における自発的な助け合い運動の輪が、国民的な拡がりをもせたのも、自然の成り行きであつたと思ひます。

テレビに撮つた救助作業をみておりますと、日本からの国際救助隊員は、被害者の遺体が発掘されるたびに、作業帽を脱いで、遺体のまえで黙禱を捧げておりましたし、貴国の最高指導者・李登輝総統は、全壊した日本人学校の復旧に、自ら陣頭指揮をとつて下さいました。この悲しい天災を通して、日台関係のキズナの固さを感じとつた日本人は、数知れなかつたと思ひます。

阪神大地震の教訓から申しますと、台湾の皆様が災害の復旧事業をバネとして、新しい発想のもと、地域振興政策を、積極的に推進されることを念じて止まないものであります。

近年、台湾の地位を巡つて、国際世論が活発化しておりますが、李登輝総統が申されたように、海峡兩岸

の関係が「特殊な国と国との関係」であることは、世界の常識であります。今後の歴史の推移の中で、この兩岸関係がどのように変化してゆくかは、第三者の予測し得るところではありません。しかし、国際社会が認めている今日の兩岸関係を、正しく認識することが、アジアの平和と安定をもたらす所以であると信ずるものであり、この問題について、これ以上、言葉は必要ではないのではないかと、私は考えております。

国際社会の中で、台湾は、世界中に数多く存在する華僑・華人の人びとの心のよりどころでもあります。東南アジア諸国をはじめ、世界中の華僑・華人はいたるところで大きな経済力を行使しております。これらの人々が国際経済の安定と発展に寄与してゆけるよう、台湾はその総本山としての役割を果たして頂くようお願いして止みません。

最後に私は、李登輝総統閣下の日本ご訪問を強く希望いたします。台湾においては来年総統選挙が実施され、李登輝閣下は退任されると伺っています。ご在任中は厳しい国際環境のために、遂にそのご訪日は実現しませんでしたが、ご退任後は、一民間人としてご来日され、日本の各界各層の人達とご懇談いただきたく存じます。アジアの最高の政治指導者である李登輝閣下の一言一句に、日本人は大いに耳を傾けるであります。平和で充実した二十一世紀を迎えるために、我々は何をなさねばならないのかを、ご示唆いただければ、私どもにとつては大きな喜びであります。

以上、簡単ながら、「アジア・オープン・フォーラム」開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

一九九九年十二月四日

自由民主党顧問

塩川 正十郎